

あなたもチャレンジ! 家庭菜園

おいしくて形の良い
ダイコン作りのポイント

板木技術士事務所
板木利隆

ダイコンは、強大な根を速いスピードで地中に形成するので、根形や品質が土壌や肥料栄養の影響を受けやすい性質を持っています。

そのためには、次のポイントを押さえて育てることが大切です。

(1) 畑の準備と元肥の施肥方

少なくとも種まきの20日以上前に畑全面に石灰をまき、石ころや木切れなどを取り除きながら30cm以上の深さによく耕します。吸肥力は強い方なので、前作に堆肥が施してあれば、特に堆肥を与える必要はありません。

痩せ地で有機物不足が心配なら、完熟堆肥と有機配合肥料をよく混ぜ合わせ、事前に醗酵させた物を、株と株の間に当たる所に施し、根の伸びを妨げないようにします。

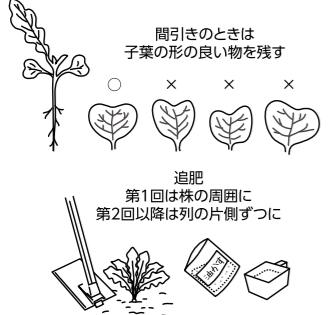
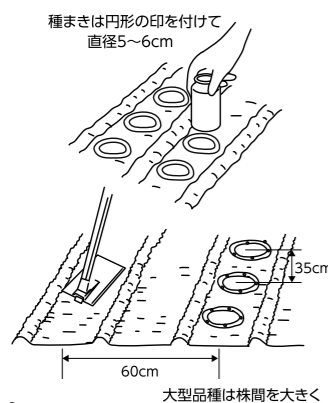
(2) まきどきを守る

早まきし過ぎると病害虫の被害を受けやすく、遅過ぎると根の肥大不足になります。関東南部以西の温暖な平たん地のまきどきは8月中旬～9月中旬です。品種による違いもあるので、種子を求めるときに適期を確かめ、適期範囲のやや遅めにまき、管理を入念にして成長を促進するよう心掛けましょう。

(3) 間引きと追肥、入念な土寄せ

種子は1カ所5～6粒を、瓶などで円状に付けた溝にまきます。発芽して本葉1枚の頃から8～9枚の頃にかけて3回ほど間引き1本立てにします。間引く際には、子葉がハート形で素直に開いている株を残すようにします。異常に育ちの早い株や、形が非対称の株は、岐根や短形になる場合があるので残さないよう注意しましょう。

間引いたら株の周りに土を寄せ、風で振り回されないように保護し立ち上がらせます。追肥は第2回の間引き時から半月ごとに3回ほど与え、土を掛けて畝を作ります。肥料は化成肥料と油かすに加え、米ぬかを混ぜると食味が良くなります。



(4) 害虫の予防、駆除を怠りなく

アブラナ科野菜の常として各種の害虫(シンクイムシ、コナガ、アブラムシ、ハスモンヨウなど)の被害が出やすいので、早めに発見、適応農薬を散布して防ぎます。

農薬に頼らない防除法としてはソルゴーを何列か置きに作り障壁にすること、防虫ネットやべた掛け資材の被覆などがあります。被覆は種まき後3週間以内ぐらいいししないと生育に支障を来すので、除覆する時期に注意してください。

害の中で最も注意が必要な病気で、多発すると有効薬剤が少なく、全滅することがあるため、予防に重点を置く必要があります。予防策には、①連作を避ける。②早播きを避ける。③圃場は高畝にして排水を良くする。④1株でも発病したら、早めに抜き取る。⑤ヨトウムシ類、アオムシ、コナガ等の害虫の被害を受けると、そこから病原菌が侵入しやすいので、害虫防除を徹底する。⑥比較的耐病性のある早生種(現時点では本病に対する耐病性品種はない)を選ぶ、等があります。病徴がみられたら、一刻も早くZボルドー500倍液を散布してください。

- 夏秋播き野菜の病害虫名が不明で、防除薬剤が解らない場合は、被害を受けた部位(葉など)や実物を営農販売課または各支店までご持参下さるか、症状を電話でお知らせ下さい。
- 薬剤散布に際し、展着剤アプローチB I (1,000倍)を使用することをお勧めします。

台風対策

○パイプハウスの補強

- ・台風の通過が懸念される場合は、パイプの抜け上がり防止のために、らせん杭を設置したり、パイプ埋設箇所の土を固めて下さい。さらに、筋交い、控え柱の点検を行い、不具合や不備な箇所があれば補修して下さい。
- ・直管パイプ基礎部の埋め込みが浅くなっている場合は土を補給し、絞め固めて下さい。
- ・ビニールの浮き上がり防止のために、ハウスバンドを締め直して下さい。
- ・万が一、台風が来る場合は、締め切っていたハウスのサイドを台風通過後早急に開け、ハウス内で栽培中の野菜類の高温被害の防止に努めて下さい。

○露地野菜

- ・台風が通過すると予想される場合は、ダイコン、キャベツ等の間引きは台風通過後に実施して下さい。
- ・万が一、台風の通過や強風に遭遇した場合は、通過直後に各種病害の発生予防および草勢回復のため、ダコニール1000の1,000倍液に液肥を1,000倍になるよう混合散布して下さい。
- ・降雨により、地表水等の滞水があったら、速やかに排水して下さい。2日以上滞水すると、ほとんどの秋冬野菜類は軟腐病に罹病します。

果樹

★温州ミカン

○ハダニ類の防除

発生の有無を観察し(=葉の裏面を注意深く見ると、極小さい赤い虫が活発に動き回っています。また、葉の表面が白色のカスリ状になっていれば多発している証拠)、実物を確認したり、カスリ状の葉が数多くみられたら、サンマイル水和剤の3,000倍液またはダニトロンフロアブル2,000倍液を早急に散布して下さい。

Zボルドー500倍液を交互に7～10日おきに最低2回散布し、予防防除に努めて下さい。

- ・アオムシ、ダイコンシンクイムシ、ヨトウムシ類、コナガ=こまめに圃場を観察し、発生がみられたら、アディオソ乳剤またはオルトラン水和剤を2,000倍で散布して下さい。

★キャベツ

○追肥=締まった品質の良いキャベツ作りの基本は適期・適量施肥です。

- ・1回目=定植10～15日頃に、「そさい5号」を3g/株施用して下さい。
- ・2回目=結球始めの9月下旬～10月上旬に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。
- ・生育が劣る場合は、10月中旬～下旬に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。生育が順調であれば3回目の追肥は不要です。

○病害虫防除=早期発見・早期防除

- ・べと病=多雨、多湿が続くと多発します。早期発見に努め、発病がみられたら、ダコニール1000の1,000倍液またはジマンダイセン水和剤600倍液を葉裏までかかるよう丁寧に散布して下さい。
- ・軟腐病・黒腐病=低温多湿時や台風通過後の肥料切れの圃場で多発します。発病がみられたら、Zボルドー500倍液を散布して下さい。
- ・アオムシ、ヨトウムシ類=加害初期(発生初期)に、アファーム乳剤2,000倍液またはオルトラン水和剤2,000倍液またはトレボン乳剤2,000倍液を散布して下さい。

★ハクサイ

○定植と間引き=ハクサイの苗は軟弱で、生育初期に風雨や害虫の被害を受けやすいため、1穴に2本植えにし、活着して生育が旺盛になる頃(本葉が6～7枚頃)に、生育の良い方を残して1本にして下さい。この時、残した苗の株元がぐらつかないように、土を少し寄せて下さい。

○追肥=キャベツ同様、よく締まった品質の良いハクサイづくりの基本は、適期・適量施肥です。

- ・1回目=本葉が10枚になったら、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。
- ・2回目=1回目の追肥施用後、20日後に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。
- ・2回目の追肥後、生育に不揃いがみられたら、生育の悪い株のみ、2回目の追肥から2週間後に「そさい5号」を5g/株施用して下さい。

(注)ハクサイの球は80～100枚の葉で形づくられています。播種が遅れると結球を始める10月中旬頃までに葉数が不足するため、球のしまりが悪くなります。逆に早播きし過ぎると、発芽直後の高温により、苗の育ちが弱ってしまいます。例年、しまりの悪いものや球が大きにならない場合は、播種時期に気をつけて下さい。⇒ハクサイは非常にデリケートな野菜です。

○病害虫防除=早期発見・早期防除

- ・軟腐病=症状は、結球直前になって、下葉の付け根や茎の地際部が腐り始め、次第に葉が外側に倒れ、全体が腐って悪臭を発生します。ハクサイの病

水稲

本格的な実りの秋を迎え、連日稲刈り作業に追われている中、今年の出来ばえは如何でしょうか。先月に引き続き、今月はコシヒカリの刈取り、更にあきさかりの刈取りと、まだまだ忙しい日々は続きます。最後まで気を抜かず、詰めの作業を適切に行い、良質な米に仕上げてください。

★あきさかりの適期刈取りによる胴割れ米の発生防止

あきさかりは穂や粉が黄化しても茎葉が緑色をしているので、刈り取り時期を見誤ることがあります。積算気温1,070℃を目安に粉水分25%での適期刈取りを励行し、刈り遅れによる胴割れ米の発生防止に努めてください。

※その他刈取りに関する注意事項については、先月号を参考にしてください。

★刈り取り跡の雑草対策

近年、クログワイやオモダカなど多年生の難防除雑草が増えています。

毎年発生が多い水田では、稲刈後雑草の発生を待って、ラウンドアップマックスロードや草枯らしM1C等の除草剤で防除を行ってください。

★秋の田起こし

刈取りが終わった水田は早めに耕起してください。耕起が遅くなるとすき込まれた稲わらが十分分解されず、翌年のワキの原因となります。

稲わらを腐熟させるためには、気温が高い10月中に耕起しましょう。また来年のおいしい米づくりに向けて、耕起前にいね一番や元氣3兄弟などの土づくり肥料を散布することも重要です。

露地野菜

連日の高温に伴い、各種害虫類が多発しています。特に、アオムシやヨトウムシ類等の土壌害虫が多く見られますので、既に秋冬野菜の播種を終えた場合は、圃場の観察を十分に行い、各種害虫の発生に留意して下さい。これから播種される場合は先月号に記載したとおり土壌処理剤を必ず施用して下さい。なお、播種や定植後、無降雨が1週間以上続き、土の乾燥が続いたら各野菜とも早朝または夕方に灌水して下さい。

★ダイコン

○間引き=1回の間引きで1本にせず、必ず2回に分けて行って下さい。残す苗は先月号を参照して下さい。

- ・1回目=本葉が3枚になったら、奇形葉や生育の遅れた苗を間引き、2本立てにして下さい。
- ・2回目=本葉が5枚になったら、葉色が特別濃いものや薄い株を間引き、最終1本立てにして下さい。

○追肥=追肥は間引き直後に施用して下さい。

- ・1回目=1回目の間引き直後に、「そさい5号」を3g/株施用して下さい。
- ・2回目=2回目の間引き直後に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。

○病害虫防除=予防防除・早期防除の徹底

- ・軟腐病=低温多湿が続くと多発します。今月下旬から10月中旬にかけて、低温・多湿が続く場合は